

平成31年度 道川分教室研究計画

- 1 研究主題 一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくり
～自立活動における個別学習の指導を通して～（2年次／2年計画）

2 主題設定の理由

道川分教室の児童生徒は、全員が独立行政法人国立病院機構あきた病院重症（者）病棟に入院しており、卒業後も入院を継続していく。児童生徒が卒業後、それぞれの病棟で豊かな生活を送れるようにしていくことが道川分教室の大切な役割である。

そこで昨年度は、児童生徒一人一人の「卒業後の目指す姿」とその実現に向けた「教育的ニーズ」を明確にし、一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりに取り組んだ。自立活動を中心とする本分教室の教育課程の中でも、教育活動の基盤となる個別指導の時間に焦点を当て、自立活動の流れ図を作成し活用しながら、担任一人だけではなく複数の教員によるチームで協力・連携しながら授業改善を進めた。それにより児童生徒の関心の幅が広がり、活動への見通しをもち、活動への意欲が高まる様子が見られ、表出のタイミングが速くなったり、快の表情が増えたり、気持ちを表出しようとする場面が増えたりという変容につながった。

2年計画の2年次である今年度は、昨年度取り組んだ教育的ニーズの把握や自立活動の流れ図を年度当初から生かし、チームでの話し合いを充実させ、チームで連携しながらより充実した授業づくりを目指して取り組んでいきたい。

これまで道川分教室で大切にしてきた、児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具の工夫」「授業展開」を意識した授業づくりに取り組み、授業記録やビデオ記録を活用し、チームでの複数の目による客観的な評価と授業改善を積み重ねることで、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた個別学習の指導ができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究仮説

複数の教師によるチームで個別学習を支える工夫を行い、教育的ニーズの明確化から指導計画立案・実践までの手続きを行い、客観的な評価と授業改善を積み重ねることで、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた個別学習の指導ができるのではないかと考え、本主題を設定した。

4 研究方法

(1) 授業づくりをチームで支えるための工夫

- ・道川分教室としての教育的ニーズの捉え方、自立活動の流れ図を活用した自立活動の項目と関連付けた指導計画作成までの手続きの仕方について共通理解を図る。
- ・3つのチームを編成し、授業づくり検討会でチームごとに児童生徒の実態把握を行い、卒業後の目指す姿、個々の教育的ニーズを押さえ、自立活動の流れ図を活用しながらめあてや手立て、指導内容を考え、授業づくりを進める。また、全職員で情報を共有・検討する機会を設定する。
- ・チームごとにミニ授業研究会（授業づくり検討会の中で）を実施し、ビデオ記録の活用等により各自の個別学習の授業を見合ったり意見交換したりしながら評価を行い、授業改善を進める。
- ・発達アセスメントMEPA-IIを複数の職員により実施し、実態把握に役立てる。
- ・授業評価記録用紙について、個別学習の授業で客観的な評価ができるよう様式や活用方法を工夫し、授業改善に生かすことができるようにする。

(2) 授業づくり検討会（児童生徒一人につき年7回実施）

- ・チームで実態把握を行い、個々の卒業後の目指す姿、教育的ニーズを押さえ、自立活動の流れ図を活用しながらめあてや手立て、指導内容を考え、授業づくりに生かす。また、ビデオ記録を活用したミニ授業研究会を実施し、評価と授業改善を行う。

- ①4月：児童生徒一人一人の実態、卒業後の目指す姿、教育的ニーズ、目標等について確認し、昨年度作成した自立活動の流れ図を見直す。それを基に個別学習の指導内容について検討する。

- ② 5月：個別学習の年間指導計画、指導内容を検討し、個別の指導計画に反映させる。
- ③ 6月：指導主事計画訪問に向けてミニ授業研究会（ビデオ参観）を行い、評価と改善点について話し合い、指導案（略案）を作成する。
- ④ 7月：指導主事計画訪問を受けた成果と課題の確認をする。また、中間評価を行い、これまでの指導が適切であったかを確認し、2学期以降の指導に生かす。
- ⑤ 8月～11月：
授業研究会①、②、③に向けて指導内容を検討し、指導案を作成するとともに、事前授業を実施して評価を行い、授業改善を図る。
- ⑥ 12月：授業研究会授業提示以外の児童生徒についてミニ授業研究会を行い、評価と改善点について話し合い、成長・変容を確認し、3学期の指導に生かす。
- ⑦ 2月：児童生徒の今年度の変容や成果と課題について評価・確認し、次年度に向けての方向性について検討する。次年度に向けた自立活動の流れ図の見直しを行う。

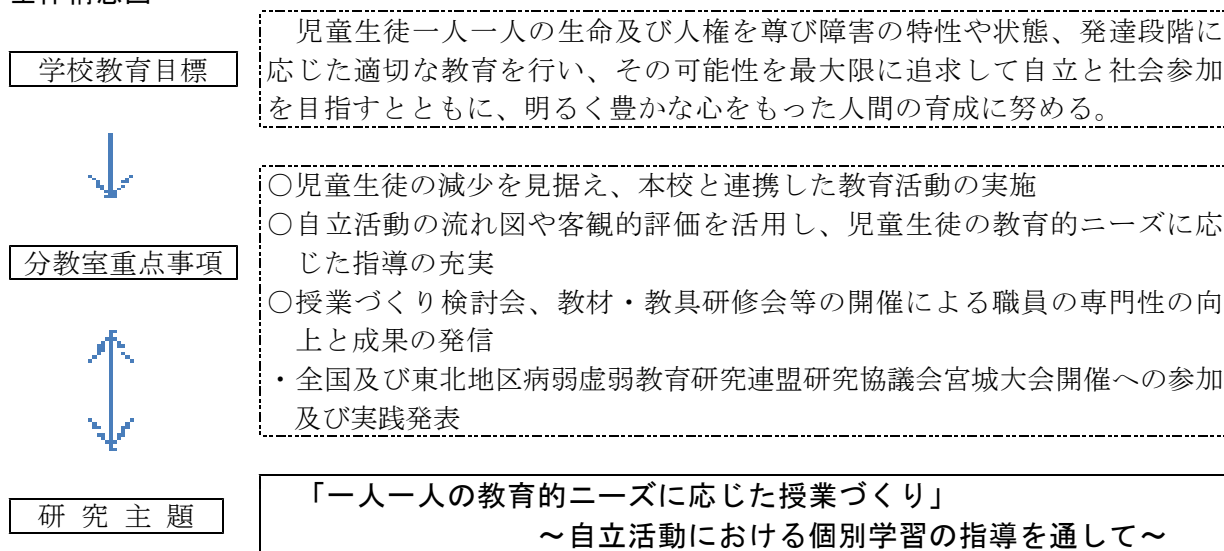
(3) 授業研究会

- ・ 個別学習の授業提示及び研究協議会を通して、教育的ニーズに応じた授業づくりについて協議する。
- ・ 外部専門家や分教室以外の職員による助言や外部評価を得て、より専門的、多角的に指導内容・方法を検討する。

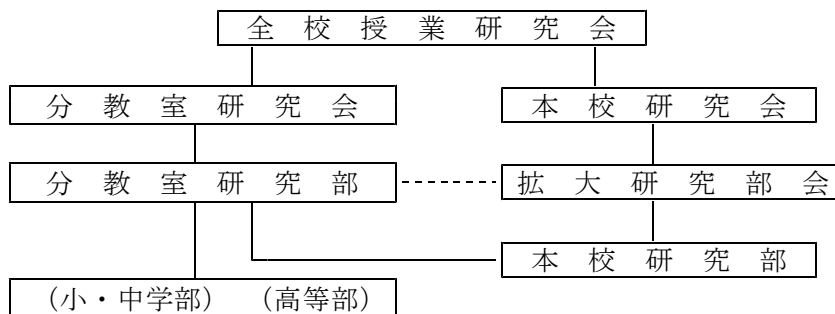
(4) 自立活動学習会及び教材・教具研修

- ・ 校内外の人材を活用した自立活動や教材・教具についての研修を実施し、専門性の向上や日々の授業改善に生かす。

5 全体構想図



6 研究組織



<研究年間計画>

主 な 活 動 内 容				
月	研 究 会	授業づくり検討会・授業研究会	学習会・研修会	その他
4	分教室研究会①(15) ・今年度の研究の進め方について	授業づくり検討会Ⅰ(22~26) ・実態、教育的ニーズ 流れ図の確認	自立活動学習会①(15)	県特研理事会①(10) 訪問担当教員研修会 : 前期(21)
5	分教室研究会②(8) ・研究概要の確認	授業づくり検討会Ⅱ(13~17) ・目標、指導内容の検討		
6		授業づくり検討会Ⅲ(10~12) ・ミニ授業研究会① ・計画訪問指導案検討		
7		授業づくり検討会Ⅳ (16~8/23) ・1学期の成果と課題 ・2学期に向けての改善点	自立活動学習会②(8) ・宮城大会発表について 教材・教具研修会①(26)	指導主事計画訪問 (1) 病弱教育地区別研修会 中央地区(26)
8			全国病弱虚弱教育研究連 盟研究協議会宮城大会 (7/31~8/2)	病弱教育地区別研修会 県南地区(6) 県北地区(8)
9		授業づくり検討会Ⅴ①() ・授業研究会に向けて 授業研究会①(30)		
10				訪問担当教員研修会 : 後期(8)
11	分教室研究会③(11) ・前期の成果と課題 の共通理解、後期 に向けた授業改善	授業づくり検討会Ⅴ②() ・授業研究会に向けて 授業研究会②()		
12	分教室研究会④(16) ・研究の評価及び課 題の整理	授業研究会③(11) (指導主事要請訪問) 授業づくり検討会Ⅵ() ・ミニ授業研究会② ・3学期に向けての改 善点	教材・教具研修会②()	
1	分教室研究会⑤(30) ・研究のまとめと研 究紀要作成に向け て		研修報告会() ・公開研究会等報告 自立活動学習会③() ・授業改善プロジェクト 報告	病弱教育研修会 県特研理事会②(18)
2		授業づくり検討会Ⅶ() ・児童生徒の変容、来 年度のねらいについて		
3	分教室研究会⑥(2) ・研究のまとめと次 年度研究に向けて			

※ () の数字は実施予定日